

川崎天然ガス発電所3・4号機増設計画 計画段階環境配慮書に対する市長意見(案)

1 全体的な事項

本事業は、平成28年度からの電力の小売の全面自由化に当たって、JX日鉱日石エネルギー株式会社川崎事業所内の隣接する敷地を新たに賃借し、天然ガス火力発電設備(約55万kW)2基を増設するものである。既存の発電設備はガスタービン及び汽力によるコンバインドサイクル発電方式であり、熱効率は57.6%であるが、増設設備は同様なコンバインドサイクル発電方式とし、既存同等以上の熱効率の機種を計画している。運転開始は平成33年度を目標としており、発電所全体の合計出力は84.74万kWから約195万kWとなり、一層のエネルギー利用の効率化を図る計画としている。

本事業の環境影響評価を行う際には、最新のデータや知見をもとに、可能な限り予測し得る最大のリスクを考慮しながら進めること。また、環境影響評価方法書以降の図書の作成に当たっては、分かりやすい説明を心掛けるとともに、次の内容を十分に踏まえ、必要に応じて関係機関と協議すること。

2 個別の環境要素に関する事項

(1)大気環境

事業実施想定区域の近隣には複数の火力発電所が存在し、更新等が予定されているものもあることから、周辺の大気環境の状況は将来的には変化する可能性がある。そのため、他の発電所の稼働による影響も考慮に入れながら、可能な限り複合的なシミュレーションの実施を検討すること。また、工事や季節変動等で短期間に高濃度となる場合の影響についても考慮し、適切な環境保全措置を検討すること。

工事用資材等の搬出入に関しては、計画している輸送経路沿いの地域における生活環境の保全にも配慮すること。

振動・騒音についても、その影響がどのようになるのか、ノイズコンターマップを作成するなど、市民が理解しやすいデータを用いて説明すること。

この他に、復水器の冷却に使用する冷却塔については、その排熱が周辺環境へ影響を与えるものかどうか検討するとともに、その使用に伴い生じる水蒸気(いわゆる白煙)が景観並びに陸上交通及び海上航路に与える影響について検討し、その結果に応じて必要な措置を取ること。検討に当たっては、既設の冷却塔の影響も考慮に入れること。

(2)動物・植物・生態系

事業実施想定区域ではコチドリやコアジサシ等の重要な種の生息が確認されており、営巣が確認されていない状況であっても、当該区域を採餌で利用している可能性がある。そのため、未利用地についても動植物の利用状況を可能な限り調査し、その影響の少ない方策を検討すること。検討に当たっては、採餌場所の形状にも十分な配慮を行うこと。

また、コチドリ等の鳥類が営巣できる裸地を維持するため、砂礫地の管理計画を策定すること。策定に当たっては、植樹した植物の成長を考慮したものとすること。

緑化計画については、生物多様性に配慮して策定すること。

1・2号機の建設に際しては、人と自然の調和を考慮し、約2万本の植樹等により緑地を確保した実績がある。本事業においても、人と自然の調和を考慮した対応を採ることを期待する。

(4) 景観

計画段階環境配慮書では、設備設置場所が異なるA案とB案について、3方向から煙突の見え方を比較検討しているが、周辺の他の事業所の煙突や敷地内の既存の煙突の状況を勘案しながら、色彩等についても検討し、検討経緯を明らかにすること。

(5) 廃棄物等

工事中及び施設の稼働によって発生する廃棄物については、それらの発生量を明らかにした上で、特に廃棄物の発生抑制の取組を推進すること。

また、特に掘削土については、敷地外へ持ち出さないとしていることから、その発生量及び利用方法を明らかにすること。

(6) 温室効果ガス等

現在よりも熱効率に優れた設備に更新することにより、燃料の原単位当たりの温室効果ガス排出量は低減されるとしているが、総排出量としては増加する計画になっている。発電所に係る部分について、更新前後の温室効果ガス総排出量の内訳を明らかにすること。また、工事期間中も含めた一層の温室効果ガス排出量の低減対策を検討すること。